

自己評価結果公表シート

2023年度

明星小学校

1. 学校の教育目標

明星学苑は2023年に創立100周年を迎えた。明星小学校では、建学の精神「和の精神のもと、世界に貢献する人を育成する」を受け継ぎながら、新しく設定した教育目標『『賢さ』と『豊かさ』を兼ね備えた、輝きをもった人の育成』をもとに、次の100年（Next100）に向かっての大切な助走期間として、特色ある教育活動を展開していく。「質」（教育の質、教師の質、子どもの質、保護者の質）の観点から、「教育の明星」としてのブランド化を図っていく。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

(1) 教育力向上

- ① これからの社会に必要なグローバル力を育む「英語力」と「理数力」を重視した教育
- ② これからの社会に必要なグローバル力を育む「先進的プログラミング教育」
- ③ 深い学びと豊かな心を育む五感を通して感動を体験する「探究教育」
- ③ 児童一人ひとりの資質・能力を育てる高い「授業力」の育成

(2) 一貫教育の推進

- ① 子どもの力を最大限に伸ばす一貫教育の確立（幼小、小中連携）
- ② 内部進学者の確保
- ③ 特色ある「明星ブランド」を創る

(3) 広報活動の強化と入学者確保

- ① 定員増、支出削減計画作成及び実行
- ② 「教育の明星」をブランド化する広報戦略、政策をIRセンターとの連携

(4) 働き方改革の推進

- ① 「楽しい」と思える職場の確立
- ② 仕事内容の効率化を図る
- ③ 働きやすい環境・制度の確立

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
(1)教育力向上 ○「英語力」と「理数力」を重視した教育		・教研式学力検査 CRT の結果は、全国平均を100としたとき、5年国語（97）、2年算数（99）で僅かに下回ったが 殆どの学年で国語・算数の得点が全国平均を5～10ポイン

・卒業時英検 80%以上保持 ・公開授業研究会で発信 ・低学年理科	A	ト上まわり、中には 10 ポイント以上のものも見られた。 ・5, 6 年の理科に関しては、5 年（93）、6 年（90）と課題は見られる。 ・卒業時英検保持率 82%以上で、目標値 80%以上をクリアした。
○「先進的プログラミング教育」 ・ベネッセ、ソニー、明星大学情報学部との連携	B	・明星大学と連携した未来テラス、プログラミング教室は昨年度からの積み上げも順調で、児童の発表等にも質の向上がみられた。
○感動を体験する深い学びと豊かな心を育む教育 ・知的好奇心や自ら考え行動する力を育むカリキュラム	A	・100 周年記念行事に関しても、児童会中心に手作り感満載の企画・運営を行うことができた。 ・日常に戻しつつ行ってきた宿泊学習、畑体験、低学年理科等で、「体験教育」「くぬぎの時間の体験」で主体的に動く姿が大きく向上した。
○質の高い教育力 ・校内研究会の充実と公開授業研究会の外部発信 ・IR センターとの連携	A	・体験学習、宿泊学習などを徐々に日常に戻しつつ行ってきたが、コロナ禍で育てられなかったものや今後育てなければならぬものが明確になったことが成果であった。 ・授業力向上に関しては、授業研究を算数科だけでなく他教科に広げて外部講師を招き、授業づくりの在り方について研究してその成果をあげた。特に、算数プラスとして算数以外の教科（国語、理科、英語、体育、くぬぎ、音楽、道徳）でも外部講師を招聘しての授業研究会を行い、授業力向上を図った。 ・第 60 回私小連東京地区研修会を、本校を会場に全クラス授業公開し、約 1300 名の参加者を得て開催することで、本校の研究成果を発信できた。 ・外部向け研究会は、明星算数講座第 25 回（10/14）に 120 名を超える参加を得て、本校の特色である「算数の明星」を外部に発信することができた。2 回目である第 26 回明星算数講座を 3/26 に開催する。
（2）一貫教育の推進 ○連携を深める一貫教育 ・幼小連携カリキュラム ・小中連携カリキュラム	B	・幼小連携では、コロナ禍ではあったが新しく作成した幼小連携カリキュラムの実践を図ることができた。（教師間交流、園児児童間交流、小学校教師の幼稚園への出張授業など） ・小中連携では、新しく「ゼミ探究」（小学生と中学生の合同での活動）の場を設定し、連携を図ることができた。
○内部進学確保 ・幼稚園から40%以上(29名以上)	B	・内部進学では、明星幼稚園からの入学が 31 名/72 名（43%）で、昨年の 42 名/93 名（45%）より減少したものの目標値を超え、同程度の割合で入学者を確保できた。

・中学校へは 70 %以上 (66名以上)		・明星中学校への内部進学は、61 名/93 名（66%）で、70%に届かなかったものの昨年 51 名/85 名（61%）より増加し、近年では最高となった。 ・2023 年度より明星特進クラスが新設されたが、22 名の特進進学、総合進学クラスは、39 名の進学となった。
○特色ある「明星ブランド」を創る ・明星小独自の取り組み	A	・特色ある明星ブランドとして、英語の強化、理数の強化、先進的プログラミング、に加えて、「探究」を推し進めたが、「クラス探究」「ゼミ探究」とも SDGs 教育や STEAM 教育と関わって活動することができた。特に、6 年生と中学校 1 年生との「合同ゼミ探究」を企画・実践し、連携の足が唐戸することができた。 ・理数の強化の一環として始めた 2 泊 3 日の「マス・キャンプ」（函館）は 14 組の参加上がり、好評のうちに終えることができたが、今後理数強化で明星ブランドの一つになると考えている。 ・明星ブランドの一つとして、「教師力」「チーム明星」を発信し続けたが、幼稚園、保育園、塾などで、強く認識された。
(3) 広報活動の強化と入学 者確保 ○入学者の確保 ・志願者 200 名以上、 ・入学者 100 名以上	A	・広報強化チームを結成してより具体的な施策を実施し、認知度、志願者増加プランの実践を図った。 ・志願者 275 名、入学者 100 名を得ることができ、目標値を達成する成果となった。
○IRセンター、広報部と連携した 広報戦略	A	・教育支援室と連携を図り、「探究」と「情報」で、大学を巻き込んだワーキンググループ「未来テラス」を継続して開催することができた。 ・私学小学校受験者数前年度 88%首都圏私学 62 校中、参加者増 14 校、減 48 校の現状からみて本校は健闘しており、効果的な広報戦略が展開できたと判断している。 ・校長わくわくチャンネルとして開始したユーチューブは、1 年 8 か月でチャンネル登録数 1950 名、47100 回視聴を得ている。（3 月 11 日現在）
(4) 働き方改革の推進 ○変形労働制へ準備	B	・2024 年からの変形労働制の本格導入を目指し、プレで実施してきた。毎月の状況を振り返りながら問題点の洗い出しを行い、年間カレンダー作成資料を得ることができたので、2024 年度から本格導入できる状態を作ることができた。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	・新たな教育目標「賢さ」と「豊かさ」をテーマに、3つの柱（「深い学び」「豊かな心」「凝念」）で望ましい児童像を描きながら取り組んだ。特に、理数力、探究力、そして、教師力の育成に力を入れてきた。児童の変容、授業中の様子、保護者アンケート、C R Tの結果等から、授業力、チーム学校力に力強さが見られた。また、児童の自立を促すための手厚い指導が、手をかける指導から目をかける指導へ変わってきた成果として、児童会を中心とした動きに大きな成長が見られた。 ・広報活動の一層の強化により、志願者、国立附属小との併願数が増加したことからも明星ブランドが広く定着してきたと捉えられる。

◎「3. 4.」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
・明星ブランドとしての「理数」の一層の強化	・明星大学と連携を図り、未来型教室「理数ワールド」を創る。 ・算数強化の一環として、夏に実施した希望制の2泊3日のマス・キャンプ（函館を予定）を継続し、その効果を検証する。 ・明星算数講座（年3回）を通して、外部に発信する。
・明星ブランドとしての「探究」の一層の強化	・「くぬぎ探究」「クラス探究」「ゼミ探究」の3本柱で「探究」に取り組み、明星オリジナル探究カリキュラムを作成する。
・広報活動の強化	・志願者（300名以上）、入学者（100名以上）を目指し、広報活動のより一層の充実を図りながら、明星ブランドを広げていく。 ・内部進学の一層の強化（幼稚園から40%以上、中学校へ70%以上）を図る。

※記入に際しての留意点

- 「3. 評価項目の達成及び取組状況」の理由については、指標や基準等の内容に基づいた成果や取組の状況、評価結果の根拠を記入する。
- 「4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果」については、「3. 評価項目の達成及び取組状況」を総合的に評価して記入する。
- 「5. 今後取り組むべき課題」については、評価項目を課題とするだけでなく、指標や基準等、できるだけ具体的な視点から課題を記入することが望ましい。
- このシートを作成するに当たり、教職員の「個人評価シート」や、個々の指標や基準等を評価する「補助シート」を作成することも考えられる。